

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2014年 7月 18日提出

氏名	平野 港
所属	環境獣医学講座 公衆衛生学教室
学年	博士課程 1年
出張先	熊本市
出張期間	2014/6/20～22
目的	第二回 Leading Program 学生会議への参加

活動内容 (2,000字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

今回のインターンシップでは、熊本大学の主催で開催された、第二回 Leading Program 学生会議へと参加した。博士教育課程リーディングプログラムはこれまでに全国で 50 以上のプログラムが採択されており、その内容も人文科学系から物質科学まで極めて多岐に渡る。本学生会議はリーディングプログラムに所属している多様な学生間の交流を図ることを目的として、先年より学生主体で開催されている。本年度は 7 月 21 日(土)、22 日(土)の二日間に渡り開催され、全国から 26 プログラムからの参加者があった。本学獣医学研究科からは私も含めて 5 人が会議へと参加した (写真 1)。



写真 1 学生会議への参加メンバー

本会議では『博士の **Employability** と博士教育と社会との接続』をメインテーマとして、博士人材の卒後の社会貢献について活発な議論が行われた。会議は大きく分けて2つの内容に分けられ、1, 招待講演者による講演及び質疑応答、2, 博士人材の社会貢献とリーディングプログラムの改善案に関するワールドカフェ (グループディスカッションの一形式)、である。ワールドカフェの最後にはこれまでの討議内容を踏まえた上でのプレゼンテーション形式での発表も行われた。

前者の招待講演では産・学・官を問わない、広い領域で活発に活動をなされている5名の方を招き講演が行われた。私は中でも、現職、米国特許商標局特許審査官である Dr. Devang Thakor 氏の講演を興味深く拝聴した。Devang 氏は医療生体工学の博士号を米国にて所得後、ポスドクとして日米で遺伝子治療及び幹細胞移植に関する研究活動に従事していた。しかし自身のキャリアの中で研究そのものから、その活動を支援する立場に興味に移り、現在ではこれまでの研究キャリアの経験も活かして、特許商標局に所属する傍ら、学術誌投稿と研究費獲得に関連するコンサルタント会社を立ち上げ、精力的に活動を行っている。同氏のキャリアは、研究のみにとらわれず、博士人材として社会への貢献を行うことができる良い例であると考えられた。また、博士号はあくまで所得者の知的教育水準を示す目安にしか過ぎず、何らかの活動を行うための必須資格ではない。所得後にどんな活動を行って来たのかが重要であるとの同氏の講演内容は、勉学、研究への取り組みの重要性を再認識させられた。

後者のワールドカフェは、複数の関連するテーマについて比較的短時間 (15分程度) で複数回メンバーをシャッフルするディスカッション形式の1つである。込み入った内容の議題について一定の結論を出す必要がある場合には情報の共有がやや煩雑になってしまうが、多くの人と意見を共有し、親睦を図る場合には有用な形式であると考えられる。今回は『博士教育と雇用について』を共通のテーマとして、博士人材の強み/弱み、自らの将来設計、リーディングプログラムの改善案、などについて5回程度グループを換え、ディスカッションを行った (次頁写真2)。また、ディスカッションの議論を踏まえた上でのリーディングプログラムの改善案についての、プレゼンテーションコンペも行われた。今回の学生会議においては、参加者の約1/4が海外よりの留学生ということもあり、ディスカッションは、ほぼすべて英語で行われた。極めて多数の初対面の人々と英語で論を交わす機会はなかなか得難く、また、テーマについても普段馴染みのある研究内容ではないため、非常に困難であるものの取り組みがいがあった。お互いに関する予備知識無しに、英語でのコミュニケーションが避けられない状態で、おおよそ2日間、集中して討議を行うことは自身の英会話力向上にとってもよい機会であったと思う。プレゼンテーションコンペにおいては自らの班の討議内容について発表する機会にも恵まれた (次頁写真3)。



写真2 ワールドカフェの様子



写真3 発表の様子

今回の学生会議への参加では、互いのプログラムの違いを共有し、多くの異なるバックグラウンドを持つ学生達と交流できたことが一番の成果であると考えます。一例を上げれば、他のプログラム、とりわけ工学系のものと比較して、私達の One Health プログラムは研究志向が強く、起業や特許関連などの方向性はやや弱いことが感じられました。他のプログラムはリーダーシップ論の様なマネジメントに注力した授業があることも興味深かった。また、語学力については私達のプログラムは極めて多くの留学生を受け入れていることもあり、高水準にあると思われた。今後、本会議で得られた成果を活かして、学生主体の Leading Progress などの活動に還元して行きたい。

文責: 平野 港 (1,833 字)

指導教員確認欄	所属・職・氏名：公衆衛生学教室 教授  苺和 宏明  印
---------	--

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp